



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[47]歳、勤続年数[26]年、現場経験年数[23]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[39]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[33]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[7]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A・B・C	「停車しているトラックの車内にて、男性が	
経過2		意識消失」との指令にて出場。	
経過3	A・B・C	現場到着。トラックの車内で心肺機能停止	トラック左前方へ部署。
経過4		状態に陥っている傷病者を確認、心肺脳蘇生	
経過5		法を開始する。	
経過6	A・B・C	トラックの車内で活動中、救急隊長が	
経過7		トラックのエンジンを停止したところ、前方	
経過8		へ動きだし、救急車の左側面に衝突。	
経過9	A	当該救急車は運行不能と判断し、通信指令	
経過10		室に救急車の代替出場を要請。	
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

訓練時においては、活動前に事故車両の固定(歯止め・レスキューブロック)を行うが、実際の事故現場で基本的な活動を省略したため。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について